

本日はご多用中のところ、私のために大勢の方々にお集まりいただきまして、感無量でございます。

思い起こせば十五歳まで貧乏のどん底で、これ以下はないという生活でした。十五歳から米屋の丁稚奉公を始め、食べるものがあれば死にはしないというひどく単純な動機で、料理人を志しました。

北の迎賓館といわれる札幌グランドホテルに拾っていただき、十八歳の時に料理の神様、帝国ホテルの村上料理長を頼って上京。二十歳の時に村上料理長よりスイス・ジュネーブ行きを告げられ、十年後には君たちの時代が来るから、ヨーロッパで十年は辛抱するように、と申しつけられました。

そして十年後、三十歳の時に四ツ谷でオテル・ドゥ・ミクニを開店。時代の荒波に揉まれながら、よくも三十年のあいだ店を維持できたものだと思えます。奇跡といっても過言ではありません。

そしてこのあいだに、皆様との出会いがありました。皆様お一人おひとり、僕のおかげがえのない財産です。今日まで支えていただき、本当に感謝の言葉もありません。僕の命をひきかえにしても足りない思いです。

三十歳の時に、あるお婆さんに言われました。三國君、お金がなくても学歴がなくても、お店はできるのよ、と。腕と信用があれば叶うのよ、自信をお持ちなさい。あなたには「念ずれば花ひらく龍華の花」が見えるわよ。その言葉を信じて今日まで頑張つてまいりました。

還暦を迎え、これからは今までの六十年の人生を白紙に戻し、自分のためではなく、人のために生きる人生を歩んでいきたいと考えております。これまでも増して皆様のご支援、ご批判を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。

平成二十六年九月二十二日

三國清三